

Jwima

Japan Writing Instruments
Manufacturers Association

日本筆記具工業会ニュース

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-30-6
TEL 03-3891-6161 FAX 03-3802-9692
発行：日本筆記具工業会 広報委員会 2003年1月1日 005号

基本的なことをあたりまえにやっていくことが、事業を押し上げる原動力

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

期待をもってスタートしました2002年の景気も、底打ち感はあるものの相変わらず低迷が続き、われわれ筆記具業界が受けるダメージも年々積み重なっていくように感じられます。

そのような中でサッカーWカップが初の共同開催として行なわれました。各会場では期待にたがわぬ熱戦が続き、開催国である日韓両国ともに決勝リーグ進出を果たすという結果を残し、国内を大いに盛り上げてくれました。一方では経済効果が3兆円ともいわれ、景気回復の救世主として期待されておりましたが、その勢いが長く続かなかったことは残念であります。

ここ数年の不況は、簡単に好転するものではなく、ますます企業を窮乏させていくように思います。しかしながら、こうした不況の中にあっても、着実に業績を伸ばし利益をあげている企業が多々見受けられます。こうした企業は、なにも目新しいことばかりやっているわけではなく、ごくあたりまえのことをごくあたりまえに着々と実行していくことで好業績に結び付けています。

昨年、松井選手が惜しくも3冠王には届きませんでした。それが同様の成績をあげ、今年、米国メジャーリーグに挑戦することになります。これも彼が10年前にプロ野球界へ飛び込んで以来、メジャーリーグプレーヤーを目指して、黙々と鍛錬を積み重ねてきた結果だと思えます。このプロとしてはごくあたりまえのことを着実にこなしてきたことは、必ずやいずれかの年の活躍に反映されるものと期待したいと思えます。

今、われわれ筆記具業界も、事業の再編・流通改革・外国製品の流入増加等々ものすごい勢いで動いております。私ども企業にとっては、どの事象も今後活動を継続していくにあたり影響の大きなものでありますので、こうした動きに迅速に対応することも大事なことでありますが、本来のコア事業について基本的なことをあたりまえにやっていくことも大切だと考えております。これは基本的な約束が守れること、つまり信頼性が高いことであると思えます。また、こうしたことを一過性に終わらせず、長期にわたって継続することが事業を付加価値の高いものへと押し上げる原動力であると思えます。

日本筆記具工業会では、こうした各企業の活動をサポートし、情報を提供できるよう努めると共に、その役割を果たすために今後とも皆様方とコミュニケーションをはかりながら業界全体の発展に寄与していく考えであります。この活動の一環として、昨年、日本筆記具工業会のホームページ(<http://www.jwima.org/>)を立ち上げました。これは、業界内に限らず広く意見や考えを収集すると同時に、筆記具の情報発信基地として活用しようとするものですので、ぜひ皆様にご利用いただきたいと思います。

今後とも一層のご指導、ご鞭撻をお願いいたしますとともに、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

日本筆記具工業会
会長 数原英一郎

講演会と懇親会で、会員の団結と業界の発展を誓いあいました。

日本筆記具工業会は平成14年12月19日、上野精養軒において講演会、並びに懇親会を実施しました。講演会は、女優のジュディ・オングさんを講師に招き、「輝いて生きる 21世紀『人生の生き方』」と題して、国際人として活躍されているジュディさんの多彩なエピソードを楽しく拝聴しました。用意した席を完全に満たす盛況ぶりでした（報告は別紙にて）。懇親会においては、経済産業省、(財)日本文化用品安全試験所、(社)全日本文具協会の皆様を来賓にお招きし、また多数の新聞社、業界専門紙の方々の出席も得て、総計90名で祝杯をあげ、本工業会のますますの団結と業界の発展を誓いあいました。当日、講演・懇親会に先立って理事会を開催し、平成15年度の「第1回理事会」は4月22日(火)午後3時からとしました。また、「第2回通常総会」は5月20日(火)午後5時から、上野精養軒にて開催することを決定しました。

<委員会・部会報告>

平成14年11月から12月までの本工業会委員会及び部会の活動を報告します。本工業会は総務、流通、調査研究・広報、技術、国際の5つの委員会が各担当分野の年度事業を起案し推進しています。委員会の中には専門部会を設置し、特定分野のルールづくりや相互理解を図っている委員会もあります。委員会の委員長には5人の副会長があたり、理事会において委員会間の報告、調整、決定を行っています。11～12月は3つの委員会・部会の活動がありました。以下報告します。

総務委員会（委員長：横井文夫副会長） 11.26

○(14年)理事会、講演会、年末懇親会開催について。
 ○15年度「第2回通常総会」及び「第1回理事会」開催の日程調整について。
 ○文具科学館企画展協賛について。日学科学技術振興記念財団から「文具企画展」に関する協力要請があり、これを前向きに検討することにした。
 ○「グリーン購入法適合品」に関する調査について。環境省から筆記具分野における「グリーン購入法適合品」の販売状況についての調査依頼が寄せられ、これを該当する各社へ連絡した。対象品目は、ボールペン、マーキングペン、シャープペンシル、シャープしん、鉛筆、以上5品目。委員会は集計結果の公開を求めた。

流通委員会（委員長：堀江圭馬副会長） 12.12

○「お客様相談窓口連絡会」（神田勇部会長）が12月3日に本工業会と(社)全日本文具協会との共催で行った連絡会について報告した（右記部会報告参照）。

○JANコードについて。製品JANコードと箱(函)JANコードの各社統一が図られていないが、業界としての統一見解を示すのは現段階では難しく、各社の判断で対応することにした。尚、流通バーコードに関する諸問題について引き続き調査することを付帯した。

○返品に対するメーカーの対応について、メーカー各社が共有できる基準づくりに着手した。

○その他。①カタログ等への流通協賛金に対するアンケート実施について。②東京都文具事務用品商業組合(都文商)は、「模倣品は売らない」と態度表明した旨の報告があった。

<お客様相談窓口連絡会> 本工業会・全文協共催
 12.3（神田勇部会長）

○ボールペンリフィル互換性の調査結果について。各社のお客様相談室にお客様・小売店から「ボールペンリフィル（中しん）互換性」の問い合わせがあった際に、即答できるマニュアルづくりに着手した。

○各社のお客様相談窓口に寄せられるクレームの実態と質問についての事例研究を行った。

技術委員会（委員長：西村貞一副会長）

<ボールペン部会・マーキング部会合同部会>

11.5（西本洋二部会長・長島功典部会長）

○ボールペン、マーキングペン筆記試験機について。新たな「筆記試験機」の仕様及び見積が承認され、初期設計料の各社負担につき次回検討することにした。

○ボールペン筆記試験用紙について。欧州筆記具工業会とのやり取りと、日本側の今後の対応について検討したが、結論に至らず、ボールペン部会において継続審議とした。

○耐光性試験について。ボールペン及び水性ボールペンの耐光性試験は、種々の規定はあるものの明確ではないため、各社の試験法についてアンケート調査を実施することにした。また、「変色」についての問題提起もあり、以降、マーキングペン部会において継続審議することにした。

○可塑剤の規格基準の改正について。日本文化用品安全試験所から最近の「フタル酸エステル類」の規制や指導について説明があった。厚生労働省は14年8月、食品、添加物の規格基準の一部を改正し告示した。これら改正はボールペンやマーキングペン等に直接関係ある規格基準ではないが、当部会もこのような可塑剤の規制や指導を認識して対応していくことにした。

○新JISマーク制度について（内容は、鉛筆等部会の【※】の項と同様です）。

○その他。ゲルインキボールペンは油性、水性のどちらのJISを適用するべきか議論があり、これを受けてゲルインキボールペンのJIS化に向けての活動をボールペン部会で検討することにした。

<ボールペン部会> 12.11（西本洋二部会長）

○筆記試験機について（11.5の継続審議）。初期設計料は試験機台数で均等配分する形で決着した。

○筆記試験用紙について（11.5の継続審議）。日本側として「油性水性どちらの用紙を用いてもよいという可能性はないか」と欧州筆記具工業会に対して提案を行うことにした。

○耐光性試験について（11.5の継続審議）。各社アンケートの結果、試験法の見直し、即ち「JIS改正」は不要との意見が大半だった。

○ISO 9957-3「液体筆記製図用具」規格の5年見直しについて。本工業会の意見として「現状維持」で投票した。

○ゲルインキボールペンのJIS化について（11.5の継続審議）。①JISによるゲルインキボールペンの標準化を図る必要性を各社認識しており、当該製品にJIS化が適法かを部会等で検討したところ「適合している」との結論を得たので、「水性ボールペンJISの改正」という形式で「事前調査票」を経済産業省に提出することにした。②これに先立ち、水性ボールペン出荷に占めるゲルインキボールペンの出荷比率を調査することにした。

<鉛筆・色鉛筆及びそれらに用いるしん部会>

11.22（西本洋二部会長）

○「鉛筆の削り方 SOS」マニュアル改正版について。内容の最終調整をした。

○新JISマーク制度について【※】。日本文化用品安全試験所から「新JISマーク制度」についての説明があった。同制度は平成17年(2005)4月施行予定で、現在は準備段階にある。認定対象品目に筆記具が該当するかは現段階では未確定だが、「マーク(表示)制度」として制定される公算が強い。今後も安全試験所からの情報提供を継続的に行っていくことにした。

○レコード式画線機発注に関するアンケートについて。本年5月に本部会が仕様を決定した新式画線機の発注に関するヒヤリングを行うことにした。事務局に依頼した開発費の公的助成については、15年半ばの認可を待つことになった。

○変退色試験法についての意見交換を行った。

<お知らせ>

◎万年筆・シャープペンシル・ペン先の製造業、ボールペン・マーキングペンの製造業、及び鉛筆の製造業に適用されている中小企業信用保険法に係る「特定業種」の指定が改めて平成15年3月末日まで延長されました。「特定業種」に指定されると、金融機関から借入をする際に信用保証協会の「特例保証」を受けられます。特例保証を含む保険限度額は、普通保険4億円、無担保保険1億6千万円、特別小口保険2,500万円です。（詳しくは事務局まで）

◎「中小企業経営革新支援法」が14年から施行されています。中小企業の創意ある向上発展を支援することを目的に補助金、低利融資等が用意されています。（詳しくは事務局まで）

◎(財)日学科学技術振興記念財団は、本工業会と全文協他を協賛に15年3月23日から4月5日まで、「文具を科学する・企画展」を実施します。会場は麻布十番の同財団内の文具科学館です。（お問い合わせは、記念財団03-3455-2711まで）

パイロットグループホールディングスの恒遠 顯（つねとう・あきら）社長が昨年11月25日、ご逝去されました。行年73歳でした。恒遠社長は「万年筆からスタートしたパイロット。万年筆とインキの開発製造に求められる高度で緻密な技術と、筆記具への長年にわたる愛情が、すべての商品をつくる原動力です」をモットーに誠実で堅実な事業展開をご指導くださった大先輩でいらっしゃいました。常に業界の「水先案内人(パイロット)」でられました。ご冥福をお祈り申し上げます。

2002年7月～9月の出荷・輸出・輸入

繊維・生活用品統計（国内向け販売と輸出向け販売を含む）

（金額は百万円）

出荷	単位	2002年7-9月度		2001年7-9月度		前年同期変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量%	金額%
ボールペン	千本	346,794	16,995	343,590	16,912	0.9	0.5
マーキングペン	千本	178,109	9,650	172,916	9,516	3.0	1.4
シャープペンシル	千本	64,934	4,445	70,869	4,675	△8.4	△4.9
鉛筆	G	472,720	1,508	468,591	1,519	0.9	△0.7
シャープしん	千本	860,959	1,501	877,637	1,584	△1.9	△5.2
クレヨン・パス	千本	28,698	298	22,956	287	25.0	3.8
水彩絵の具	千本	18,186	753	18,083	810	0.6	△7.0
修正液	千本	13,597	1,167	13,721	1,345	△0.9	△13.2
修正テープ	千個	18,710	2,051	-	-	-	-
合計金額			38,368		36,648		(△0.9)%

*の変動率は目安です。修正テープを除く8品目総額の前年同期比です。Gはクロス（1.44本） 2002年の数量・金額は年報等と若干異なる場合があります。

◎2002第3四半期(7~9月)の出荷合計は01年同期に並んだ。本年第1四半期マイナス9.7%、第2期マイナス8.9%と前年を割ったが、今期で底入れした模様だ。輸出の完成品9品目合計も同期比マイナス2%と同様の傾向がうかがえる。とくに金額で大黒柱のボールペンが数量で約6%、金額で約3%と健闘したことが明るい材料だ。輸入は第1四半期40億円、第2期39億円、今期34億円と規模的にしばむ傾向にあり、我が国は輸出超過(第3期は183億円超)を堅持している。

◎品目別で見ると、ボールペンとマーキングペンの数量

・金額が増加に転じたことが好材料だ。輸出の回復がよい結果になったようだ。また、クレヨン等の出荷は数量でプラス25%と最も大きい増加率を示した。これも輸出の200%超が貢献している模様。一方、第3四半期は部品や部分品の輸入が目立った。しんをこの分類に含むと3桁増加がほとんどだった。完成品の内なるグローバル化が進んでいる結果か。

◎今期の国内消費力推定は「プラス0.02%」で、前期のマイナス4.1%から大きく改善した(数値は完成品の出荷額から輸出額を除き、輸入額を加えた前年同期比)。

日本貿易統計

（金額は百万円）

輸出	単位	2002年7-9月度		2001年7-9月度		前年同期変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量%	金額%
ボールペン(油性)	千本	70,305	2,611	251,726	10,732	5.7	2.8
ボールペン(水性)	千本	195,849	8,424				
マーキングペン	千本	84,235	3,753	79,633	3,559	5.8	5.5
シャープペンシル	千本	43,708	2,131	50,027	2,611	△12.6	△18.4
万年筆	千本	1,408	217	1,391	178	1.2	21.9
以上のセット品	千S	204	28	374	32	△45.5	△12.5
鉛筆	G	207,182	92	50,874	105	307.2	△12.4
補足：鉛筆(重量)	kg	30,325	92	36,974	105	△18.0	△12.4
シャープ用しん(鉛筆しんを含む)	kg	145,726	619	155,341	1,043	△6.2	△40.7
クレヨン	kg	23,276	71	7,730	21	201.1	238.1
			(小計 17,946)		(小計 18,281)		
ボールペン用中しん	千本	56,475	876	58,250	835	△3.0	4.9
マーキングペン用ペン先及びニブポイント	千本	923,990	1,532	951,858	1,567	△2.9	△2.2
シャープ部品・付属品	kg	39,815	191	57,884	356	△31.2	△46.3
万年筆及びボールペンの部分品	kg	307,270	1,139	298,811	1,000	2.8	13.9
合計金額			21,684		22,039		△1.6

Gはクロス（1.44本）

日本貿易統計

（金額は百万円）

輸入	単位	2002年7-9月度		2001年7-9月度		前年同期変動率	
		数量	金額	数量	金額	数量%	金額%
ボールペン	千本	47,970	1,318	45,998	1,436	4.3	△8.2
マーキングペン	千本	49,670	673	35,795	537	38.8	25.3
シャープペンシル	千本	9,761	278	6,810	237	43.3	17.3
万年筆	千本	136	122	189	205	△28.0	△40.5
以上のセット品	千S	453	40	482	40	△6.0	0.0
鉛筆	kg	316,537	228	249,364	224	26.9	1.8
しん	kg	79,137	76	24,582	34	221.9	123.5
パステル、チョーク	kg	230,078	114	264,659	135	△13.1	△15.6
			(小計 2,849)		(小計 2,848)		
ボールペン用中しん	千本	10,695	89	4,550	53	135.1	67.9
ペン先及びニブポイント	千本	30,178	40	13,428	23	124.7	73.9
ボールペン又はシャープの部品	kg	165,627	377	123,487	330	34.1	14.2
ペン軸、その他部分品	kg	30,369	76	14,787	45	105.4	68.9
合計金額			3,431		3,299		4.0

(鉛筆重量を本数に換算する目安：0.7kg=1クロス)